

松原公園整備を考えるワークショップ

主催:佐賀市・佐賀県・公益財団法人鍋島報効会・佐嘉神社



2024 年

第 1 回

5月26日 日曜日

13:30~16:00 開場 13:00

第 2 回

6月23日 日曜日

13:30~16:00 開場 13:00

会 場 佐嘉神社記念館 3階

問合せ 佐賀市歴史・文化課

☎ 0952-40-7103 FAX 0952-40-7382

Mail: rekishibunka@city.saga.lg.jp

※お車で来場される方は、佐嘉神社記念館南側の
駐車場をご利用ください。

テーマ 松原公園の整備について考えよう

第 1 回

- ①現地確認
- ②話題提供
- ③グループワーク(こんな場所になればいいな。)
- ④発表

第 2 回

- ①グループワーク(地図に整備イメージを描こう。)
- ②発表



◎専用申込フォーム

右の QR コードをスマートフォン等の
カメラで読み取り、送信してください。

参加・お申込みについて

【申込締切】5月9日(木)

【申込方法】メール、QR コード、

またはファックス

※応募多数の場合は、早めに締め切る場
合があります。

・メールでお申込みの場合

下記の必要事項を記載の上、メール送信してください

件名「松原公園整備を考えるワークショップ参加申込」

①代表者氏名(年齢)②参加総人数③参加者氏名(年齢)

④所属(個人・ご家族の場合は不要です)⑤メールアドレス

メール送信先 rekishibunka@city.saga.lg.jp

・ファックスでお申込みの場合

下記枠内にご記入の上、FAX 送信してください

代表者 氏名	年齢 ()	参加 総人数	所属	個人・ご家族の場合は不要です	FAX 送信先 0952-40-7382
電話 番号		メー ル アドレ ス	お持ちの方はご記入ください		
参加者 氏名	年齢 ()	年齢 ()	年齢 ()	年齢 ()	

複数名で参加申込頂く場合は、申込者以外の方のお名前をご記入ください。

・ワークショップの傍聴は可能です。(傍聴者は事前申し込み不要ですが、席に限りがあります)

・ご提供いただきました個人情報、本ワークショップに関する以外には使用致しません。

佐賀市 松原の歴史

「佐賀市 松原の歴史展」より

江戸時代から松などの樹木が生い茂る土手があり、これが「松原」と呼ばれていたことが地名の由来です。

松原は、佐賀城の本丸などの真北に位置し、松や楠の木が生い茂る土手だったようで、長崎街道から城内が見通せないようにする、目隠しの役割があったともいわれています。

また、佐賀城下を東西に通る長崎街道は、城内に近づくにつれ、北へ北へと折れ曲がり、城内から離れるように整備されており、重要な城内への視線を遮るように城下町がつくられていました。



江戸時代、城下東側の武家地などに生活用水を届けるために造られた人工河川、松原川。その松原川には河童がいたという伝説があり。

江戸時代の佐賀城下は、武家地が約 1,000 世帯、町人地には、約 14,000 人が住む大都市でした。多布施川から城下に運ばれた水は、松原川などを通じて城内にくまなく供給されました。その後、昭和 50 年代前半、この松原川の汚れはピークに達していました。市民総参加の清掃活動や下水道の整備により、松原川の清らかな流れを取り戻し、河童の家族も帰ってきました。



藩祖を祀る「日峯社（松原神社）」は、なぜここに？

藩祖鍋島直茂公を祀る神社として、法名から「日峯社」として創建されました。この松原の地が選ばれた理由は、松原に生えていた大楠の根元に石の祠があり、信仰の地であったことからです。

当時、新しく神社をつくることは幕府が禁止しており、信仰の地であり、もともと石の祠があった松原の地に明治 9 年（1772）に日峯社が建てられました。

その後、直茂公の正室や祖父が合祀され、また明治に入って、直茂公の息子である初代藩主勝茂公が祀られました。龍造寺隆信公が祀られた明治 6 年（1873）に「松原神社」と呼ばれるようになりました。また同年 10 代藩主直正公も祀られました。



佐嘉神社の御祭神は？

10 代藩主鍋島直正公を祀る神社として、昭和 8 年（1933）に創建され、松原神社から佐嘉神社へ御遷座され、のちに 11 代藩主直大公が合祀されました。佐嘉神社は、国家的功績のあった人物を祀る別格官幣社という社格です。

令和 5 年（2023）、創建 90 年を迎えた佐嘉神社では、次の 100 年に向け、様々な準備が進められています。



徴古館ってなんだろう？

徴古館は、昭和 2 年（1927）に開館した佐賀県初の博物館です。

鍋島家に伝わる県内唯一の国宝も含む歴史資料を保存・公開する博物館としての役目を担ってきました。戦後永らく閉館していた徴古館も平成 10 年（1998）に約半世紀ぶりに再スタートしました。



日峯社ができた直後から出店が立ち始めました。

日峯社ができて間もないころ、門前町に茶屋をだしたいという請願が藩に出されました。「粗末なものは取り扱わない、周辺の掃除もする」ということで、藩は許可します。

やがて、祭神の直茂公没後 200 年にあたる文化 14 年（1817）に参道（新馬場）が作られ、参拝者が集うとともに商いの場も生まれました。のちの時代に新馬場には、旅館、映画館、パチンコ店などの娯楽施設が軒を連ねるようになりました。松原周辺の賑わいの始まりは日峯社にあったといえます。

銅像園のはじまりはいつ？

10 代藩主鍋島直正公の生誕から 100 年を迎えた大正 2 年（1913）、佐賀県民及び佐賀県出身者の寄附により直正公銅像が松原の地に建立されました。高さ4メートルを超える大きな像でした。

銅像建立の返礼として、11 代直大公は、銅像除幕式の日に佐賀県内最初の「佐賀図書館」を落成させました。

その後建設された徴古館、佐嘉神社とともに、松原一帯は、銅像園として、市民県民の憩いの場として発展していきました。



佐賀図書館と直正公銅像
大正2～5年頃撮影 絵葉書

